

練習問題の解説

第2章 GDP と経済指標の見方

1. 国民経済計算の指標に関する以下の関係式で、誤っているものはどれですか。ただし、すべて名目値によるものとし、統計上の不突合はゼロとします。

- (1) 国内総支出 (GDE) = 民間最終消費支出 + 政府最終消費支出 + 総固定資本形成 + 在庫品増加 + 財貨・サービスの輸出 - 財貨・サービスの輸入
- (2) 国内純生産 (NDP) = 雇用者報酬 + 営業余剰・混合所得 + 固定資本減耗 + 生産・輸入品に課せられる税 - 補助金
- (3) 国民総所得 (GNI) = 国内総生産 + 海外からの所得 - 海外に対する所得
- (4) 要素費用表示の国民所得 (NI) = 市場価格表示の国民所得 - (生産・輸入品に課せられる税 - 補助金)

(ERE 第1回 2002)

解答：誤っているものは(2)です。

【解説】

図2-2を参考にして、国民経済計算に登場するさまざまな指標の関係を確認して下さい。

- (1) 正しい。
- (2) 誤り。右辺は国内総生産を分配面から捉えた大きさです。国内純生産を求めるためには、固定資本減耗を差し引く必要があります。
なお、生産・輸入品に科せられる税は間接税のことです。
- (3) 正しい。国民総所得と国民総生産は、テキスト p.16 のキーワードで説明しているように、名目では一致しています。したがって、国内総生産との差は海外からの純(要素)所得受取です。
- (4) 正しい。

2. 次の記述の続きとして、正しいものは次のうちどれですか。

「日本の居住者が、アメリカ企業への株式投資から受け取る配当所得は、」

- (1) 日本の GDP とアメリカの GDP に含まれる。
- (2) 日本の GNI とアメリカの GNI に含まれる。
- (3) 日本の GDP とアメリカの GNI に含まれる。
- (4) 日本の GNI とアメリカの GDP に含まれる。

(ERE 第2回 2003)

解答：正しいものは(4)です。

【解説】

GDP と GNI (または GNP) を区別する重要な概念が「国内」か「居住者」です。

- (1) 誤り。日本の国内で生み出された付加価値は日本の GDP に含まれます。同様に、ア

アメリカの国内で生み出された付加価値はアメリカの GDP に含まれます。したがって、日本人が海外で得た付加価値は、日本の GDP には含まれず、アメリカの GDP には含まれます。

- (2) 誤り。GNI は国民総所得であり、従来の GNP に等しいもので、一国の居住者による付加価値の総額です。したがって、日本への海外からの配当金は日本の GNI に含まれますが、アメリカの GNI には含まれません。
- (3) 誤り。(1)についての解説から、日本人への海外からの配当金は日本の GDP には含まれず、(2)の解説からアメリカの GNI にも含まれません。
- (4) 正しい。日本人への海外からの配当金は(2)の解説から日本の GNI に含まれ、(1)の解説からアメリカの GDP に含まれます。

3. 国民経済計算による諸変数が下記のとおりとき、国民所得はいくらになりますか。

民間最終消費支出	287	財貨・サービスの輸入	49
政府最終消費支出	87	海外からの要素所得の受け取り	12
総固定資本形成	135	海外への要素所得の支払い	5
在庫品増加	-2	固定資本減耗	93
雇用者所得	280	間接税	43
財貨・サービスの輸出	56	補助金	4

(ERE 第3回 2003)

解答: 国民所得は 389 です。

【解説】

以下では、まず GDP を求め、GDP をもとにして GNP を、GNP をもとにして NNP を、そして最後に NNP をもとにして NI を求めています。

$$\begin{aligned} \text{国内総生産(GDP)} &= \text{民間最終消費支出} + \text{政府最終消費支出} \\ &\quad + \text{総固定資本形成} + \text{在庫品増加} + \text{輸出} - \text{輸入} \\ &= 287 + 87 + 135 - 2 + 56 - 49 = 514 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{国民総生産(GNP)} &= \text{GDP} + \text{海外からの要素所得受け取り} - \text{海外への要素所得支払い} \\ &= 514 + 12 - 5 = 521 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{国民純生産(NNP)} &= \text{GNP} - \text{固定資本減耗} \\ &= 521 - 93 = 428 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{国民所得(NI)} &= \text{NNP} - \text{間接税} + \text{補助金} \\ &= 428 - 43 + 4 = 389 \end{aligned}$$

4. フローとしてとらえられる経済変数として正しいものは次のうちどれですか。

- (1) 銀行の不良債権額
- (2) 駅の乗降客数
- (3) 土地の時価評価額
- (4) 図書館の蔵書数

(ERE 第2回 2002)

解答:フローとしてとらえられる経済変数は(2)です。

【解説】

フロー変数とは、その大きさが一定期間という時の流れの間で、数量として計測される変数です。それに対してストック変数とは、その大きさがある一時点またはある瞬時での存在量として計測される変数です。なお、ストック変数の「変化量」は、その計測が一定期間でどれだけ変化したかをに拘わりますので、フロー変数です。

- (1) スtock変数です。銀行の不良債権額は、
なお、1ヶ月間でどれだけ不良債権額が変化したかという意味での不良債権額の変化量はフロー変数です。
- (2) フロー変数です。駅の乗降客数は、1日、1週間、あるいは1ヶ月間という一定期間において乗降した客数をさすからです。
- (3) スtock変数です。土地の時価評価額とは、ある時点で存在する土地面積を地価で評価した金額ですから、ストック変数です。
- (4) スtock変数です。図書館の蔵書数は、ある時点で存在した図書館の書籍数ですから、ストック変数です。

5. 次の記述の続きとして、正しいものは次のうちどれですか。

「国内総生産から国内純生産を差し引くと、」

- (1) 資本ストック磨耗による価値の損失分となる。
- (2) 労働者の疲労による生産力低下を金額化した額となる。
- (3) 労働による労働者のマイナスの効用を金額化した額となる。
- (4) 「外国人が日本で稼いだ所得」から「日本人が外国で稼いだ所得」の差額に等しくなる。

(ERE 第2回 2003)

解答:正しい続きは、(1)です。

【解説】

図2-2を参考にして、国内総生産と国内純生産の違いを確認して下さい。

既存の機械・設備・施設などの資本ストックが生産活動で用いられて磨耗し、その結

果、その価値は減ります。そうした価値の減少のことを固定資本減耗といい、「総」と「純」の差となります。

なお、日本語では **Gross Domestic Product** の **Gross** を「総」と訳していますが、別の意味は「粗」であり、付加価値から固定資本減耗を差し引いていないために、「粗い」価値であることを意味しています。したがって、「粗」に対して「純」が対応しているわけです。

- (1) 正しい。固定資本減耗＝国内総生産－国内純生産
- (2) 誤り。国内総生産や純生産は、あくまで国内の付加価値に関係していますので、生産効率とは関係ありません。
- (3) 誤り。新たな生産物としての付加価値は、働くことで被る不効用とは何も関係ありません。
- (4) 誤り。「外国人が日本で稼いだ所得」から「日本人が外国で稼いだ所得」の差額は、純要素所得支払いであり、国内総生産から国民総生産を差し引いた大きさに対応します。ドイツでは外国人労働者が多いことから、純要素所得支払いがプラスになり、国内総生産が国民総生産を上回るわけです。

6. 国内総生産に含まれるものは次のうちのどれですか。

- (1) 土地を売却して受取る代金
- (2) 土地が値上がりしたことによる利益
- (3) 土地売買に伴う不動産業者の仲介手数料
- (4) 土地が値下がりしたことによる損失

(ERE 第1回 2002)

解答: 国内総生産に含まれるものは(3)です。

【解説】

国内総生産とは、一定期間内に一国の領土内で新たに生産された財貨・サービスの価値の総計であり、生産活動によって得られる新しい付加価値の総計です。

- (1) 誤り。土地を売却して受取る代金には、土地所有権の移転にともなう見返りであり、生産活動による新たな付加価値を含んでいません。
- (2) 誤り。土地が値上がりしたことによる利益は、単に土地を保有していただけた結果であり、生産活動による新たな付加価値を含んでいません。
- (3) 正しい。不動産業者は、土地売買に際して土地取引を円滑に営むための新たなサービスを提供するという生産活動を行っていますので、新たな付加価値が生じています。
- (4) 誤り。選択肢(2)と同様な理由で、生産活動による新たな付加価値は生じていません。

7. ある国で、りんごと梨の生産だけが行われています。価格と生産量が下表で与えられるとき、(t+1)年の GDP デフレーターは、t 年基準でいくらになりますか、計算しなさい。ただし、りんごと梨の生産プロセスに中間投入はないものとし、他国との貿易もないものとしなさい。

	りんご		梨	
	価格	生産量(個)	価格	生産量(個)
t年	200	40	100	20
t+1年	400	10	300	30

(ERE 第2回 2003)

解答:t年基準の GDP デフレーターは 2.6 です。

【解説】

ラスパイレス式である消費者物価指数や企業物価指数とは異なり、GDP デフレーターはパーシェ式の物価指数です。

t+1 年の名目 GDP は、t+1 年の価格で t+1 年の生産量を評価した値です。すなわち、

$$t+1 \text{ 年の名目 GDP} = 400 \times 10 + 300 \times 30 = 13,000$$

基準年が t 年、比較年が t+1 年ですので、t+1 年の実質 GDP は、t 年の価格で t+1 年の生産量を評価した値です。すなわち、

$$t+1 \text{ 年の実質 GDP} = 200 \times 10 + 100 \times 30 = 5,000$$

以上より、GDP デフレーターは、

$$t \text{ 年基準の } t+1 \text{ 年 GDP デフレーター} = \frac{t+1 \text{ 年名目 GDP}}{t+1 \text{ 年実質 GDP}} = \frac{13,000}{5,000} = 2.6$$

なお、他の指数については、以下の通りです。

$$t \text{ 年の名目 GDP} = 200 \times 40 + 100 \times 20 = 10,000$$

$$\text{ラスパイレス式の物価指数} = \frac{400 \times 40 + 300 \times 20}{200 \times 40 + 100 \times 20} = \frac{22,000}{10,000} = 2.2$$

$$\text{名目 GDP の比率} = \frac{400 \times 10 + 300 \times 30}{200 \times 40 + 100 \times 20} = \frac{13,000}{10,000} = 1.3$$

8. 景気循環に関する記述のうち、誤っているものはどれですか。

- (1) キチン・サイクルは在庫投資の変動によってひきおこされ、周期は約40ヵ月である。
- (2) クズネッツ・サイクルは建設投資の変動によってひきおこされ、周期は約20年である。
- (3) ジュグラー・サイクルは設備投資の変動によってひきおこされ、周期は約10年である。
- (4) コンドラチェフの波は技術革新（イノベーション）によってひきおこされ、周期は約30年である。

(ERE 第5回 2006)

解答: 誤っているものは(4)です。

【解説】

テキスト p.22 の欄外にある「景気循環の波動」を参照し、各サイクルと、その原因及び周期について、整理しておいて下さい。

- (1) 正しい。
- (2) 正しい。クズネッツ・サイクルの周期は17～18年で、選択肢の20年は妥当の範囲とみなしてください。
- (3) 正しい。じゅぐらー・サイクルの周期は7～12年であり、選択肢の10年は範囲内です。
- (4) 誤り。コンドラチェフの波の周期は約50年であり、選択肢の約30年は短すぎることで、誤りとみなしてください。